

埼玉県保育士会 研究部会

「現役保育士の方へ意識調査アンケート」

「学生への意識調査アンケート」

調査報告

調査概要

○目的

保育施設で働く方々や保育業界を目指す学生の方々への意識調査を行い、働く職場の環境改善、人材育成に役立てる。離職防止、就業継続のための課題を考える。

○調査対象

- ①保育士として働き始めて5年目までの方
- ②保育士養成校に在籍する3～4年生(4年生大学)、2年生(短大)の学生

○実施期間

- ①令和6年 8月26日から令和6年 9月15日
- ②令和6年10月15日から令和6年11月30日

○実施方法

アンケートの依頼を会員施設、保育士養成校へ送付し、インターネットにて回答。

○回収状況

- ①現役保育士の方へ意識調査アンケート
- ②学生への意識調査アンケート

回答数
268

回答数
905

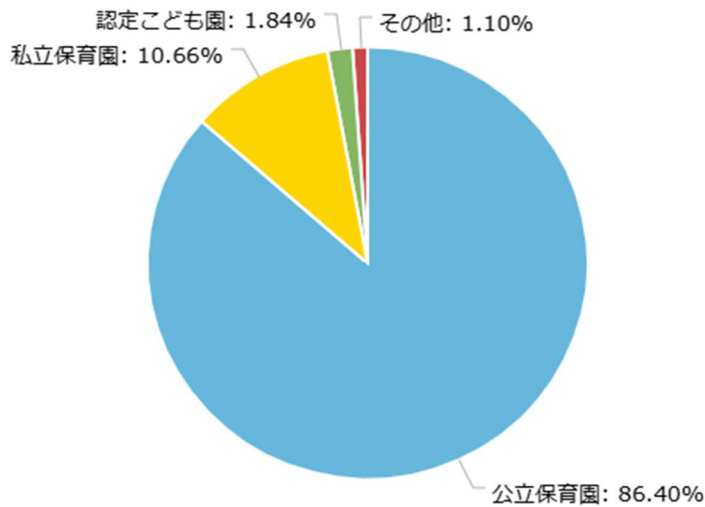
○研究部会開催

- 第1回 令和6年 6月12日(水)
- 第2回 令和6年 7月 4日(木)
- 第3回 令和6年 9月30日(月)
- 第4回 令和6年12月11日(水)
- 第5回 令和7年 1月22日(水)

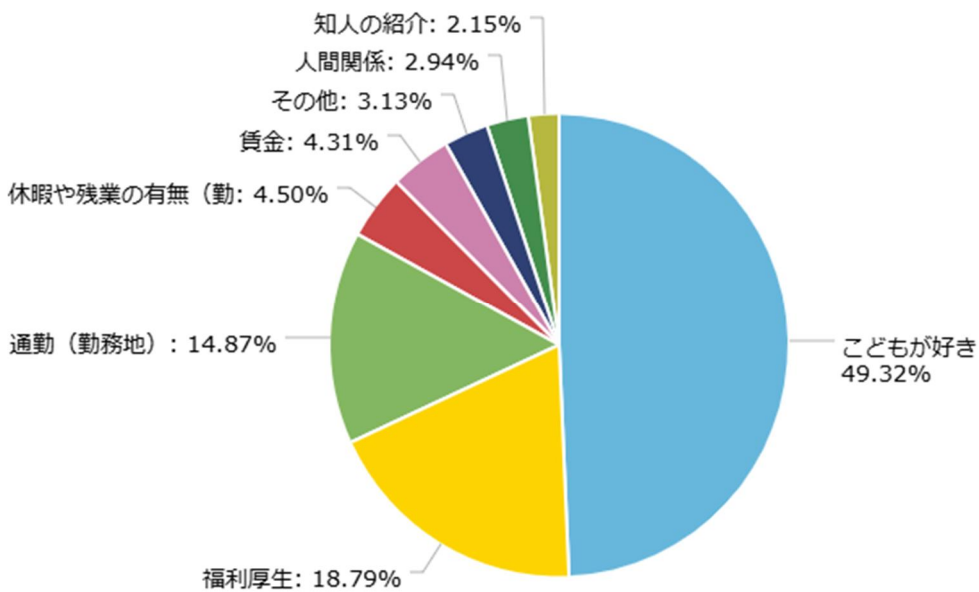
アンケート集計結果

①「現役保育士の方へ意識調査アンケート」

問1 勤務先はどちらですか？



問2 この仕事(保育士)を選んだ理由は何ですか？(3つまで選択可)



問3 働いてみて、学生の時に学んだことや思っていたこととのギャップはありましたか？ また、どのようなことですか？

- ・ギャップはあった 76.5%
- ・ギャップはなかった 23.5%（無回答含む）

◇仕事量の多さ（事務・書類・雑務など） 18.7%

- ・書類の多さや保育業務以外の仕事の多さ。
- ・仕事が多く、特に事務的な仕事の多さに悩むときがある。
- ・パソコン業務もたくさんあるのでパソコンのスキルを学べればよかった。
- ・こどもが完全にいない日というのがない環境の中で仕事を進めていく必要があるの
で、業務がなかなか終わらない。
- ・こどもたちと関わる仕事以外にも多くの職務がある。
- ・学生時代では教わらない、書類関係がたくさんありギャップを感じた。

◇こどもへの接し方 14.6%

- ・こども1人ひとりと丁寧にかかわる時間がない。
- ・こどもも人それぞれ違うため、この状況ならこうするとよいという対応を学んでも実
際はそううまくいかないこと。
- ・こどもへの寄り添い方とクラス運営の両立について。
- ・こどもの気持ちを汲み取ることの難しさと直面した。
- ・こどもに対する援助の加減の難しさ。
- ・こどもの発達を理解できるが、そこからどう実践に繋げればいいのか、初めは引き出
しが少なく手探りだった。

◇教科書通りではない 13.4%

- ・働いてみて教科書通りのことなんて1つもないし、今でも毎日が勉強。
- ・様々な性格や家庭環境、精神状態のこどもたちがいること、また同様に保護者がいる
ことに学生時代に学んだこと以外にも配慮や支援をすることがたくさんあることを知
り、想像していたよりも保育士という仕事は難しいということにギャップを感じた。
- ・学生の頃の授業で習っていた保育はとても理想的な保育だと感じた。
- ・教科書通りにいかないところが難しいが面白いと感じる。
- ・座学で学んだことよりも、実際に保育の現場に入って学ぶことのほうがたくさんあ
り、毎日やりがいを感じている。

◇保護者対応 11.2%

- ・保護者とのコミュニケーションの取り方の難しさ。
- ・保護者への対応が難しい。
- ・保護者の初めての子育てに対する不安や相談の多さが想像以上だった。
- ・こどもより保護者との対応のほうが大変に感じる。

◇責任の重さ 7.5%

- ・こどもの命を預かるという緊張感。
- ・命を守っているという重みをより感じています。
- ・当たり前だが、とても責任の伴う仕事で心体ともにストレスがたまることが多い。
- ・こどもの動きに目を配り、危険が起きないように神経を使う。
- ・こどもと関わる以外にも、書類事や保護者や保育士の人間関係、裁縫など保育士は色々求められる責任のある仕事なんだと実感した。

◇職場の人間関係 5.2%

- ・保育者同士の関係性の大切さは働いてから感じました。
- ・保育の現場で働くことは職員同士の連携が重要というところは学生の時あまり考えていなかったもので、働いてみて実感しました。
- ・保育士として様々な人や機関との連携がとても求められる職だと強く感じている。
- ・女性の職場なので人間関係は大変だと感じる。

◇臨機応変 4.9%

- ・想像以上にこどもの様子や職員の配置で臨機応変に動く場面が多いと感じた。
- ・思っていたよりマルチタスクだなという印象がある。
- ・時間配分を考えながら臨機応変に動く。

◇良い職場環境 4.1%

- ・良い意味で上下関係で刺激を受けている。
- ・こどもたちに寄り添った保育に感動した。
- ・想像していたより楽しい。
- ・持ち帰りの仕事がなかった。
- ・休憩がきちんと取れることに驚いた。
- ・分からないことを教えてくれたり職場の環境が温かく働きやすかった。

◇時間外業務の多さ 3.7%

- ・事務仕事の多さに少し驚いた。そのことで仕事が終わらず残業することが多い。
- ・サービス残業が多い。
- ・自分の効率が悪く、持ち帰りの仕事が多くなってしまう。

◇配慮が必要なこども 3.6%

- ・授業で聞いていた、虐待・施設に通っているこどもたちが身近にいて驚いた。
- ・公立のため配慮児がとても多い。
- ・療育についての知識も必要だった。
- ・想像していたよりも家庭環境の悪いおこさんが多く、大変なこどもが多い。
- ・障がいのあるこどもや支援が必要なこどもについて学んだが、こんなに多いと思わなかった。
- ・障がい児など授業で取り扱う事例には当てはまらないこどもが多く、対応方法など学習した内容では対応できないことが多くある。

◇待遇（給料の低さ） 3.6%

- ・思ったよりも給料が低い。
- ・給料と仕事量が見合っていない。

◇保育士不足 2.6%

- ・公立保育園は保育士不足などないと思っていたが保育士不足。
- ・個別対応が必要なこどもも増えている中、こどもの人数に対して保育者の人数が足りない。
- ・保育士の人数に余裕がないため、学生時代に学んだことを行う余裕がない。

◇その他 3.7%

- ・こどもが好きという気持ちだけでは勤まらない。
- ・思っていたより体力が必要なこと。
- ・休憩が適切な環境で十分にとることが難しい。
- ・保育士は明るく楽しい世界がほとんどだと思っていたが、実際はそれ以上の心労があるものだと思った。
- ・不適切と報道があるたびにどこまで、どうしたらよいかと悩み、働き辛いと思う。

働いてみてギャップがあったとの回答が大多数だった。こどもへの接し方や教科書通りではない、責任の重さなど保育についての回答が多く、書類作成や事務仕事、保護者の対応など、実習ではほとんどやらなかった仕事に戸惑う声も多数あった。

また配慮が必要なことが多い、低賃金や保育士不足など、現場ではどうにもならないが働きにくい状況があることも感じているようだ。

思っていたよりも職場の環境が温かく働きやすかったり、こどもに寄り添う保育ができているという回答もあり、良い面でギャップがあった人もいた。

問4 保育士として働くことの楽しさややりがいがありますか？ また、どのようなことですか？

◇成長 61.2%

- ・ こどもの成長を感じられる。間近で見られる。共感し合える。
- ・ こどもの成長を保護者や職員と共有、見守り、喜べること。
- ・ 成長過程に大きく関わる保育という仕事にやりがいを感じる。
- ・ こどもと一緒に成長できること。

◇笑顔 25.8%

- ・ こどもたちの笑顔や喜びが見られたとき。共有できた時。楽しかったと言ってくれた時。楽しそうに遊んでいる姿をみられた時。
- ・ とにかく可愛い。可愛い笑顔を見られること。
- ・ 職員間の喜び。可愛さ、楽しさの職員間の共有共感。
- ・ 保護者の喜び、笑顔。

◇信頼 20.5%

- ・ こどもたちとの信頼関係の構築。そのための試行錯誤。
- ・ 保護者との信頼関係の構築、保護者からの感謝の言葉。
- ・ こどもたちに「先生」や自分の名前、「大好き」と言ってもらえた時。
- ・ 「先生遊ぼう」と誘ってくれる時。

◇行事 6.3%

- ・行事を楽しく乗り越えた時、こどもたちとやり遂げた時。達成感。
- ・行事をこどもたちと一緒に進めていく過程。楽しんでもくれた時
- ・行事を通してこどもたちと楽しみながら四季を感じられること。
- ・行事などを通してこどもたちの頑張る姿を間近で見ることができた時。

◇保育の中で 20.2%

- ・こどもの興味に合った保育をすることができ、こどもたちの良い経験につながったと感じた時、また、働きかけたことへの成果を感じた時。
- ・大人にはないこどもなりの素直な発想や考えを知ることができる。きっかけを与えると大人では考えつかないようなアイデアで遊びを広げていくところにワクワクする。
- ・毎日、様々なトラブルが起き、その都度対応方法を考えることにやりがいを感じる。毎日違う姿のこどもと関われること。
- ・こどもたちと楽しく、全力で遊べること。同じ目線で遊べること。
- ・自分が必要とされていると感じられる時。
- ・こどもたちの反応の良さ。やりとりの楽しさ。言葉、つぶやき。
- ・こどもたちの世話ができること。関われること。癒し、元気がもらえるところ。
- ・こどもたちが、伝えたことを覚え主体的にやってくれていること。
- ・月齢、学年によって、それぞれの楽しさ、やりがいがある。
- ・こどもたちの気持ちに触れることができること。
- ・保護者や職員同士で協力して保育を進められたとき。

◇その他 1.9%

- ・他の職員に気さくに相談しながら学べること。先輩のアドバイスを活かせたとき。
- ・素敵な保育をしている先生を見つけて自分もそうなりたいと目標を持てることが楽しい。
- ・賞与や福利厚生がしっかりしていること。
- ・職場の人間関係が良い事。

◇ない 1.1%

- ・仕事が楽しいと感じない。
- ・あまりない。
- ・仕事内容に見合った給料ではない。

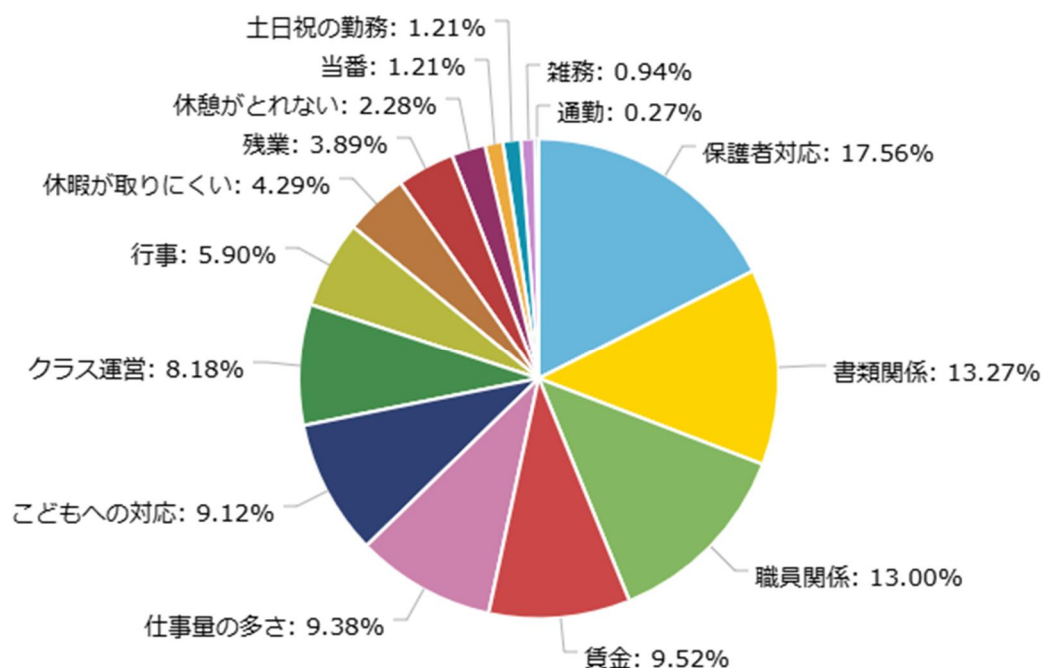
◇無回答 11.2%

「こどもの成長を間近で感じ、保護者や職員とその成長を共有し喜び合える」という回答が圧倒的に多く、0歳から就学前までの最も成長を見せてくれるこの時期に、保育に携われることには多くの方がやりがいを感じられていた。また、こどもたちの笑顔、可愛さ、楽しんでいる姿などの回答も多く、これは他の職業では、なかなか味わうことのできない保育士ならではの「やりがい」ではないかと思う。日々過ごしていく中で、コミュニケーションから生まれるこどもや保護者との信頼関係、そして、こどもたちと一緒に進め、やり遂げる行事など、共に育ち合い、一緒に考え共感し、達成感を味わえた時など、人との関りの中で感じられるやりがいも多くあった。

自分たちで考えたこどもの興味に合った保育を実践し、それがこどもの良い経験へとつながった時や、働きかけたことへの成果を感じた時など、保育者自身が主体的に考え実践することで学び、そこにやりがいを感じられることに、「保育の専門性」や、日々起こる様々なトラブルや、毎日違うこどもの姿に、その都度対応方法を考えることにやりがいを感じるという「向上心」なども窺えて、若い先生方のパワー、頼もしさに、これからの活躍が益々期待された。

その他、相談しながら学べる先輩職員との良好な関係。素敵な先輩の姿への憧れなど、職員間の関係性についても回答があった。こどもの最善の利益を一緒に考え、協力し合い、経験、年齢に関係なく意見を出し合える環境があると保育所全体の資質の向上につながり、より働きやすく、やりがいも大きくなっていくのではないかと感じられた。

問5 働いていて、大変なことやつらいことは何ですか？（3つまで回答可）



問6 問5で選んだものについて、具体的な内容があれば教えてください。

◇保護者対応 14.2%

- ・要望が多く、一人ひとりの気持ちをすべて聞いてあげられない。
- ・持ち物についてや子どもの様子について細かい対応が必要。
(言葉選び、伝え方の難しさ。)
- ・保育所と保護者の意見、要望の違い、考え方のすれ違い等その後の対応について悩む。
- ・保護者とトラブルになってしまった際、信頼を取り戻すことが難しい。
- ・保護者一人ひとりの悩みに寄り添って一緒に解決していく大切さを感じている。
- ・緊急連絡先などを言わず、休日を預ける家庭があり、何も言えず預かるしかない。
- ・様々な家庭があり、どこまで踏み込んでよいのか支援が難しい。
- ・受け取り方の違いから誤解がうまれてしまうため、誰にでも伝わるような言葉選びが難しい。
- ・経験が浅く、保護者より若いので対応に悩む。
- ・子ども同士のトラブルが起きてしまったときの保護者への伝え方が難しい。
- ・不適切保育が変な形で浸透したことで、親の気持ちのはけ口にされることがあり、辛い。

◇子どもへの対応 10.1%

- ・子どもの命を預かる大変な仕事。
- ・障害を持った子どもが多く、健常の子どもとの関わりがおろそかになる。
- ・声が通りにくい子、発達に関して気になる子など支援が必要な子どもへの接し方、関わり方の大切さを感じる。
- ・毎日違うことが起こり、子どもの気持ちを汲み取れず、ストレスを与えていないか不安。力不足を感じる。
- ・子どものやる気が出る方法、声かけやかかわり方など答えが見つからず、クラスをまとめていくことが大変。
- ・外国籍の子どもが多く、わかりやすい言葉で伝えられるよう意識はしているが、コミュニケーションの取り方が難しい。
- ・正解の形がないので、模索しながらでも、失敗や伝え方を間違えてはいけないこと。
- ・ひっかき、噛みつきなど、トラブルの解決。
- ・かんしゃくを起こしたときの子どもへの対応。

◇仕事量 22.2%

- ・保育士の人数に余裕がなく当番の多さと家庭との両立が難しい。
- ・職員が不足どのクラスもいっぱいいっぱい。持ち帰りの仕事も多くプライベートが充実しないのが辛い。
- ・保育以外の業務が多く時間を取られ、思うように仕事が進まない。
- ・保育の進め方など自己判断がしづらく、全て園長などに伺いを立てたり確認したりしなければ動けないことに働きにくさを感じる。
- ・自己流の保育なので正しい方向性で運営できているか、アプローチの仕方があっているのか不安を感じている。
- ・環境構成や事務処理など、保育をしている中では行うことが難しい。
- ・人数は足りていても担任業務を一人で抱えることに負担を感じる。この状態が続く余裕のない保育を行った結果、体調を崩した。
- ・仕事が多く定時で上がれない。次から次へと仕事が出てきて終わらない。
- ・カリキュラムなど事務関係に負担を感じる。
- ・書類関係が電子化せず手書きのものが多く。手元にも書類が多くなるため把握することに負担が生じる。
- ・日中仕事ができない上にサービス残業となり家庭での仕事量が増加。土日も仕事をしている。
- ・普段の保育だけでも大変なのに行事ごとの仕事量が多い。やりがいはあるが疲れる。
- ・行事に向けての準備や製作など期限内のすべきこと、その他研修や会議もあるため辛くなる。
- ・休憩時間に事務仕事を行っている。時間が作れない。
- ・文章能力がない。言葉の選択が難しく誰にでも理解できる文章の作成に悩んでいる。
- ・仕事量が多く、精神的に追い込まれることがあり辞めたくなる。
- ・5歳児担任は事務、作業などで他年齢児の担任より負担していることを感じる。
- ・人により業務量に偏りがある。業務の公平性について考えてほしい。
- ・早番、遅番勤務の時差に対応できず、生活リズムが崩れ整えられない。

◇処遇 9.6%

- ・職員数に偏りがある。
- ・土曜保育の振り替えがない。土曜日出勤すると週6日勤務となる。
- ・休みたいときに休めないことがある。
- ・出勤した後に人数調整があり急遽退勤。年休消化をしている。
- ・人手不足ということもありなかなか休みを入れられない。申請しづらい。

- ・障害児のいるクラスや年長児クラスなどにはプラス手当があってもいいのでは。
- ・公務員としてではなく保育士手当が欲しい。
- ・休憩がない。または決められている休憩時間がしっかりとれない。その状況を『そんなもの』と考える風潮の職員が多い。
- ・休憩は子どもがいる場所でなく別室でとりたい。
- ・命を預かる意識をしっかりと持てと言われるが人数配置が十分でない中で神経を削っている。

◇職員関係 14.9%

【コミュニケーションの難しさ】

- ・機嫌で態度や言動が変わる人がいて、話しづらいしやりにくいと感じる。
- ・立場、経験、保育観の違う職員が協力し合いながら気持ちよく働くにはそれぞれの努力が必要だと感じる。
- ・会話に入っていけずに悩んでいる。
- ・同期がいなくて相談する相手がいない。
- ・複数担任でコミュニケーションがうまく取れない。意見が合わずうまくいかないことが多い

【精神的な苦痛】

- ・認められるより指摘（指導）が多い。
- ・理不尽に怒られるのが精神的に疲れ、辛いと感じる。
- ・自分の保育が認められず辛い。
- ・保育という仕事への熱量の違いがある。

【価値観の違い】

- ・それぞれの保育観や理想像があるので多人数だと意見が合致しなかったり、不満があっても言えずに我慢していたりすることがある。
- ・立場、経験、保育観の違う職員が協力し合いながら気持ちよく働くにはそれぞれの努力が必要。

◇賃金 14.5%

【低賃金】

- ・命を預かる仕事なのに給与が見合っていない上に求められているものが多い。
- ・責任重大な仕事なのに給与が見合っていない。上がることもないので辞めたくなる。
- ・賃金の低さは転職を真剣に考えるほど深刻。責任ある仕事なのにモチベーションも上がらない。

- ・保育士全体の給与を上げてほしい。

【残業代が出ない】

- ・仕事量に見合った給与ではないのに残業代も出ない。
- ・タイムカードもなく残業代が出ない。

保育環境、処遇、待遇などについての意見がたくさんあがり、現役保育士の声に耳を傾け、対応を考えていくことが早急の課題だと感じた。

①保育環境の改善(保護者、子ども、職員間の人間関係)

②処遇、待遇の改善(仕事の内容、働き方、賃金など)

世代間の違いや多様性を前提としたコミュニケーション方法を考えること、一人一人のスキルアップを目的とした研修の実施や上司、先輩保育士のバックアップなど職場内の人間関係の構築は必須である。また行政側と協力し、時代に即した働き方改革や処遇改善も併せて検討を要していると感じた。仕事量の多さでも苦勞している保育士が多い。職場内でできる必要な事務の精査を行うことで、負担感が緩和できるのではと可能性を探りたい。

問7 あなたがやりたい（変えていきたい）保育はどのような保育ですか。

◇保育に関すること

- ・こどものやりたいに寄り添い、主体性を育む保育。
- ・こどもがいきいき楽しんでいる保育。
- ・音楽を通して体を動かしたい。
- ・制作、造形活動を取り入れ、自由に表現できる楽しさを伝えられるような保育。
- ・こどもが自信をもって活動し、心身ともにのびのびと過ごせる保育。
- ・『こどものやりたい』を尊重する保育。
- ・こどもが安心して生活できる保育。
- ・こどもも保育士も楽しく成長できる保育。
- ・楽しむときは楽しむ、やるときはしっかりやる、メリハリのある保育。
- ・こどもたちの小さな気づきを大切に、興味を広げ、たくさんの経験ができる保育。

◇環境改善

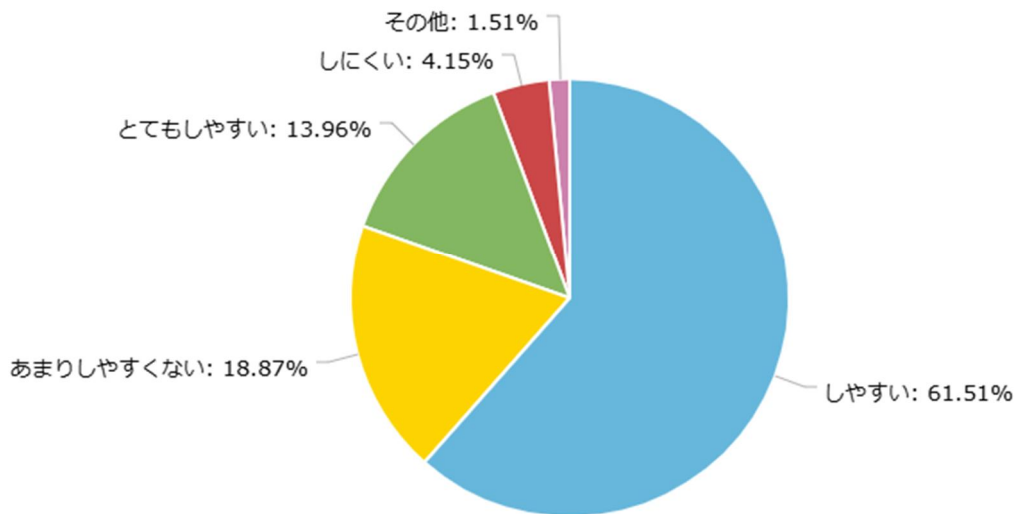
- ・配置基準より多く保育士を配置してほしい。職員確保。
- ・職員同士相談したり上下関係がなく、のびのびと意見を言い合えたりできる職員層。
- ・職員の顔色を窺わない関係性。
- ・職員全体が穏やかな雰囲気楽しく仕事ができる環境。
- ・風通しの良い働きやすい保育園。
- ・持ち帰りの仕事をなくして、しっかり休養したい。
- ・ノンコンタクトタイム、仕事をしない休憩の確保。
- ・業務のスリム化（事務量を軽減、削減、最低限にして効率化）と ICT 化をして、こともと関わる時間や話し合いの時間を増やす。
- ・週休 3 日制の実施や休暇がとりやすい環境にしてほしい。
- ・昔からの伝統、古い考え方や行事の見直し。
- ・トランポリンや跳び箱が常設できる環境。

やりたい保育では「こども主体の保育」という意見が圧倒的に多かった。保育士主導ではなく、こども自身が気づき、感じて、興味関心を持った時に意欲的にやりたいことができる環境の準備と保育の実践を多くの保育士が望んでいると分かった。

変えていきたい部分では、労働環境の改善を求める声が多く聞かれた。「ノンコンタクトタイム」に加え「休憩が確保できない」「有給休暇がとりづらい」「時間外手当が出ない」や「持ち帰りの仕事が多い」ことがあげられた。仕事の責任の重さの上に仕事量が多く待遇が悪いことを大多数の保育士が感じており、実際に離職の原因にもなっている。

行政の状況や施設の考え方もあるが、それぞれの職場で工夫しながら出来ることを模索する。経験や年齢に左右されず意見を共有したり、同じ思いで保育に取り組んだりできる環境の必要性が今後の課題であると感じた。誰もが働きやすいと感じる職場づくりと保育士の心身の安定がこどもへ大きく反映することを意識し、個人ではなく組織として対応できることを検討していきたい。今後、待遇面での抜本的な改善が離職の現状に歯止めをかける手立てとなるかもしれない。

問8 あなたの職場はだれでも意見を言えたり、相談、情報共有をしやすい職場ですか？



問9 保育士を続けられる理由を教えてください。

◇やりがいがあるから 31.7%

- ・充実を感じる。
- ・保育士という仕事内容が好き。
- ・子どもと関わることが好きで保育園に行ったら元気な子どもたちに会えることが楽しく楽しい。
- ・子どもたちと毎日楽しく生活ができています。
- ・子どもとの日々の関わりで喜びや愛しさ、感動などを味わうことができる保育士に魅力を感じている。
- ・信頼関係を築く中でお互いに成長していけることが嬉しくやりがいを感じる。
- ・子どもと接するのが楽しい、子どもたちの頑張りが感じられる。
- ・これまで培った保育知識や技術を後輩に伝えたいと思うから。
- ・学生時代に一緒に頑張った友だちが今も保育士として働いていることを考えて、自分も頑張ろうと思える。
- ・日々つまずくが、毎日学んで成長できること。
- ・日々、やることに追われている毎日だけれど、可愛い姿にたくさん笑わせてもらっていて、その一つひとつがやりがいに繋がっていると感じている。
- ・子どものことを第一に考えその成長に携わりたいと強く思える。
- ・子どもたちの成長を保護者と共に見守ることができる。
- ・日々懸命に仕事をしようと思えるから。

◇こどもたちが可愛いから 27.6%

- ・こどもが好きだから。
- ・こどもの成長を感じられる、見守れる、見届けたい。
- ・こどもたちが純粹で素晴らしい、毎日違う姿をみせてくれる。
- ・クラスのこどもたちの笑顔やふとした時にこどもが発した言葉に元気をもらえる。
- ・大変だが乗り越えられた時に成長を感じられる。
- ・こどもに対して責任がある。
- ・クラス担任の責任がある。
- ・初担のこどもが卒園する姿を見たいから。
- ・一年を通してこどもたちが成長する姿の手助けをできたと思うとやる気がでて来年度も頑張ろうと思える。
- ・クラスのこどもが可愛く、このこたちのためなら頑張れると思うこと。
- ・こどもたちが先生大好きと言ってくれるから。

◇職場環境がいいから 15.3%

- ・人間関係がよい。
- ・相談しやすい。
- ・ミスをしたらきちんと指導してくれる。
- ・落ち込んでいたら励ましてくれる。
- ・悩み事を相談できる。
- ・周りに聞ける環境があり、一緒に考えていける。
- ・助けてくれる先輩がいる。
- ・周りの先生が優しい。
- ・尊敬している先輩方の存在がある。
- ・サポートがある。
- ・ペアの先生が楽しく仕事をしてくれる。
- ・自分の意見が話しやすい。
- ・同僚や家族の支えがあり続けてこられた。
- ・経験のある先生方と話して自分も挑戦してみたい、保育に取り入れてみたい、もっと学んで自分のものにしたいと思うことが次から次へとやってくるから。
- ・クラスの先生方に助けていただきながら温かい保育ができています。
- ・職場の風通しがよく、わからないことや不安なことはすぐに相談できるから。

◇福利厚生が手厚い 4.10%

- ・福利厚生が私立園よりも良いから。
- ・休暇がきちんととれるためプライベートも充実できる。
- ・休みの融通がきく。
- ・自宅から近く、シフト通りに退勤できる。
- ・公務員としての福利厚生。

◇賃金 5.59%

- ・給与がまあまあいい。
- ・お給料が安定している。
- ・生計維持のため。
- ・辞めると生活できない。
- ・働かないと生きていけないから。
- ・他にやりたいと思う仕事が見つからないから。
- ・他の仕事に変える自身がない。
- ・奨学金返済のため。
- ・次の夢を叶えるための資金が必要だから。

◇その他 4.85%

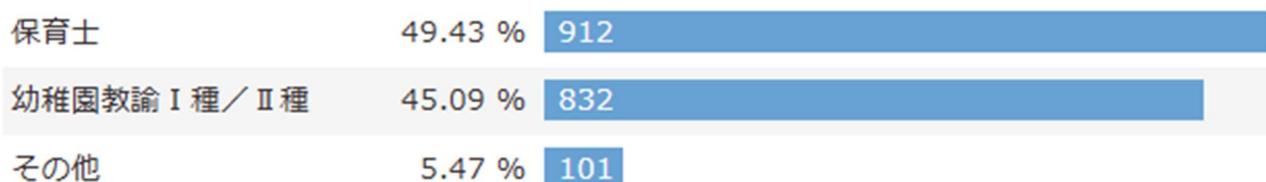
- ・辞めたいと思うほどの苦痛はないから。
- ・公立に入ったから辞めるのはもったいない気がして続けている。
- ・他にやりたい仕事がない。
- ・正直わからない。

◇無回答 10.82%

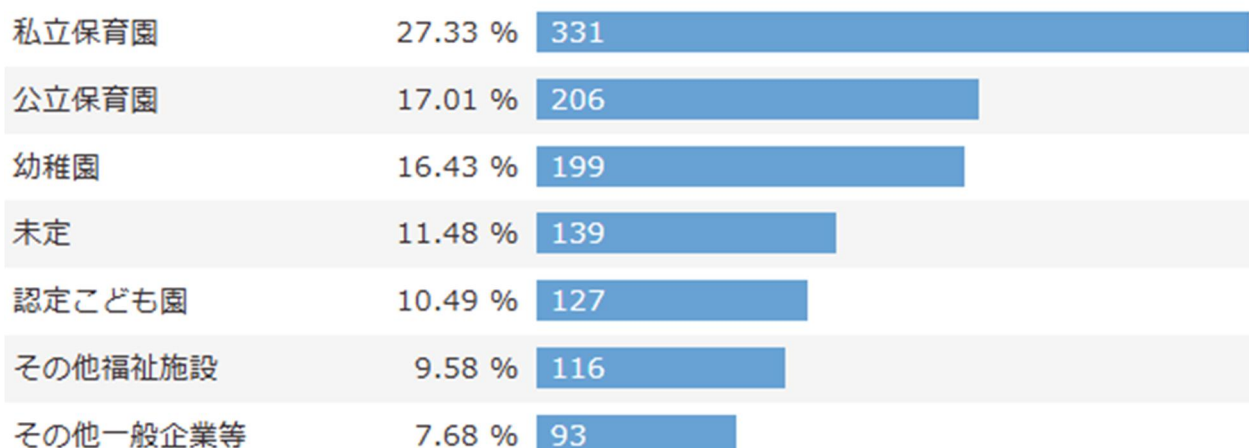
保育士はやりがいがあり、こどもが好き、こどもが可愛い姿にたくさん笑わせてもらっている、成長を感じられる、見守れる、という意見が多数であった。
職場環境がいいという中に、相談しやすい、周りに聞ける環境があり、一緒に考えてくれる、助けてくれる先輩がいる、尊敬している先輩がいるという頼もしい意見もあがった。福利厚生、賃金といったところも大切な理由になっている。

②「学生への意識調査アンケート」

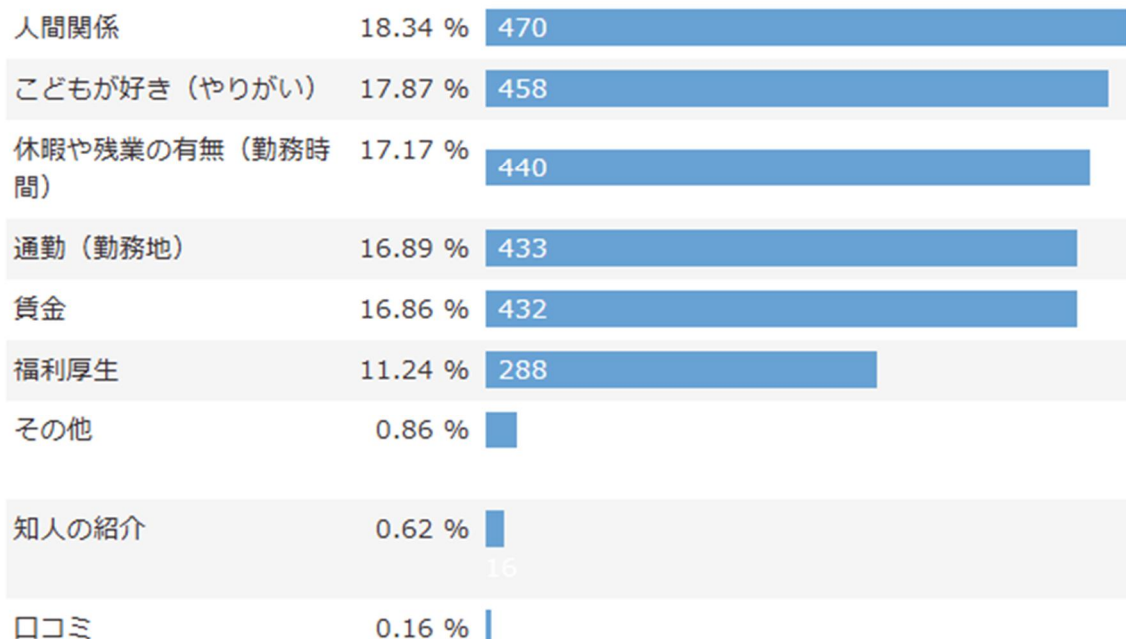
1 あなたの取得予定の資格は何ですか？



2 卒業後の進路はどちらですか？（希望を含む）



3 卒業後の進路を選ぶにあたり、重視していることは何ですか？（3つまで回答可）…



問4 この学校を選んだ理由を教えてください。

◇資格 24.8%

- ・保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭などの資格が取得できる。
- ・上記以外にも、ベビーシッター、体育検定、ネイチャーゲームリーダー、アウトドアインストラクターなどの他の資格が取得できる。
- ・単位を取れば卒業時に資格取得。2年で資格取得。テストが楽で免許取得。
- ・保育士になりたい。こどもに関わる仕事に就きたい。
- ・資格を取得し将来の幅を広げたい。

◇授業内容・方針・コース 23.3%

- ・特別支援、病児保育、病棟保育、健康保育、インクルーシブ保育、発達障害、保護者支援、保育実習、カウンセリング、福祉、心理、リトミック、点字、手話などを学ぶことができる。
- ・食育コース、夜間コース、介護福祉専攻などがある。臨床検査の学科がある。
- ・海外研修、短期フィールドワークに行きたかった。
- ・カリキュラムが充実している。様々な分野を様々な角度から学べる。授業が手厚い。保育の視野が広がる。保育士としての幅が広がる。
- ・実践力をつけられる。実習の回数が多い。実習先を選べる。
- ・ワーク&スタディーがあり、学びながら実践できる。
- ・学校の方針と、になりたい保育者像、保育観が一致。
- ・教育、福祉に特化している。専門的な知識を深く学べる。多様化するこどもに対応した保育を身につけられる。

◇雰囲気 22.2%

- ・オープンキャンパスが良かった、魅力的だった。雰囲気が良かった。在校生が楽しそうだった。
- ・先生と生徒の距離が近い、関係性が良い、先生に相談しやすそう、優しそう、支えてくれそう。
- ・学校がきれい。パンフレットを見て。良さそう。ビビッときた。HPが良かった。SNSが充実。
- ・高校の模擬授業に大学の先生が来た。小学校の時の遠足で来て良いと思った。

◇環境 11.5%

- ・ピアノの台数が多く練習に取り組みやすい。基礎から教えてくれる。1対1の指導。
- ・書籍が充実。設備が充実。キャンパスが広い。自然が豊か。女子校。
- ・少人数で丁寧な教育が受けられる。クラス制度。サポートが手厚い。
- ・3年制、4年制で、しっかりと知識や技術を身につけられる。

- ・学校にこどもと交流できる施設がある。保育園でバイトをしながら学べる。
- ・付属の幼稚園やこどもを預ける場がある。
- ・母校が隣接してある。
- ・学食がおいしい。

◇**通学の利便性 ・ 居住地** **10.5%**

- ・自宅から通いやすい。近い。
- ・立地が良い。駅近。
- ・一人暮らしをしたかった。地元から出たかった。
- ・都内に行きたかった。都内から離れたかった。

◇**受験関係** **5.9%**

- ・内部進学、付属校だった。
- ・指定校推薦、総合型選抜などがあった。
- ・偏差値、学力で判断して。
- ・入学が楽で倍率が低かった。他校は落ちてしまい模試結果のおすすめにあったから。

◇**家族、知人、教員などのおすすめ** **4.4%**

- ・家族、親戚、知人が卒業している。知人がいる。 安心感。
- ・家族、親戚、教員、知人のおすすめ。
- ・付属の幼稚園を卒園している。

◇**就職** **3.2%**

- ・公立施設や希望職種への就職率が高い。
- ・教員や幼稚園教諭の就職に力を入れている。
- ・公立への就職対策が手厚い。
- ・就職先が充実している。
- ・就職サポートが手厚い。最後まで全力サポート。

◇**有名** **2.9%**

- ・有名である。伝統、歴史、実績がある。
- ・関東の私立で最高峰。保育を目指すには優位な大学。

◇**学費等** **1.1%**

- ・奨学金、学費などが安く済む。
- ・特待生制度、入学金免除、奨励金、委託訓練制度などがある。
- ・福利厚生が充実している。

◇その他 3.4%

- ・授業が短い。授業が早く終わる。
- ・家庭との両立ができる。授業時間が子どもの送迎に間に合う。通いのみの実習可。キャンパス内の託児所。
- ・社会人学生が多い。受講生の多様性。部活と学業の両立。
- ・職業訓練校だった。
- ・一人ひとりと深く関われる仕事だと思ったから。こどもが好きだから。興味があったから。
- ・学ぶ中でやりたいことを見つけない。将来に期待が持てた。
- ・行事が豊富。
- ・褒める保育実践に惹かれた。幼保の接続を大切にしている学校だから。副校長の「年齢は関係ない」の言葉で。

◇無回答（覚えていない、なんとなくを含む） 12.4%

やはり「資格」を取得できるという理由が1番多く、保育士以外にも複数の資格を取ることができることも魅力のようだ。2番目に多かったのは「授業の内容」等で、様々な分野を学べること、その中でも特別支援についての勉強ができることへの回答も多かった。自分がどのような児童福祉についての勉強をしたいのか、目的を持って選ばれていることに感服した。

1位2位と同じく2割以上の回答があったのは、「学校の雰囲気」で、オープンキャンパスでの好印象、先生と生徒の関係性、楽しそう、優しそう、きれい、という居心地の良さも大きなポイントとなるようだ。

「環境」ではピアノの台数、指導の丁寧さなど、ピアノに対してのサポートを気にする回答が多かった。「通学の利便性」も然りである。「有名」である、「周りの方が卒業、お勧め」、「就職」へのサポート、「学費」など、先の見通しがつきやすく、より安心できることも選択の理由になっていた。

子育てやアルバイトをしながら通学されている方もいて、受講者の多様性と回答にもあった通り、様々な方が安心して受講できる体制、サポートが今後増えていくと良いと感じた。

問5 (今後保育士として働きたい方に質問です)

どんな保育士になりたいですか？

◇信用・信頼 49.2%

- ・多様性を理解し、受け止め、共感する心を大切にしたい。
- ・こどもだけでなく、保護者や保育者ともコミュニケーションをとり、信頼される保育士になりたい。
- ・一人ひとりのこどもを大切に、あたたかく見守ることができる保育士。
- ・こどもと一緒に楽しみ、互いに成長できる保育士。
- ・こどもを安心して預けることができる保育士。
- ・こどもの成長をともによろこび合えるような保育士。
- ・こどもたちの心の支えになれる保育士。
- ・どんなこどもや家庭にも平等に接し、寄り添える協調性のある保育士。
- ・責任感があり、だれからも信頼される保育士。
- ・相談しやすい保育士。
- ・こどもの生命を守り、子育てを支援する保育士。
- ・たくさん遊びを提供でき、こどもたちから好かれる保育士。
- ・こども自身の持っている力を見守り、こどもが安心感と自信を持ち、生活できる環境づくりをする。

◇こどもファースト 32.1%

- ・すべてを受け入れ、こどもの気持ちに寄り添える保育。
- ・こどもの最善の利益が考えられる保育士。
- ・「こどものため」「こどもの未来」を常に考え、伸び伸びとした保育をしたい。
- ・こどもの感性を尊重できる保育士。
- ・こどもの主体性を大切に、視線や気持ちに寄り添い、遊びを提供していく。
- ・こどもの安全を第一に考え、環境づくりができる保育士。
- ・こどもたちの意思を尊重しながら、一緒に成長していきたい。
- ・こどもの長所をのばすことのできる保育士。
- ・こどもたちの発見や驚きを共感できる保育士。
- ・個性を尊重しながら成長のサポートを行う。

◇スキルアップ 3.5%

- ・自己肯定感を高め、意欲的に物事に取り組むことができるような、支援や援助を行いたい。
- ・多文化、多国籍、年齢に伴う発達にそった環境構成を的確に行う。
- ・インクルーシブ保育など、さまざまな背景があるこどもへの保育。
- ・特性に合わせた援助を臨機応変に行う。
- ・環境を調整、活用し、時代に合わせた保育士になりたい。
- ・絵本を通じて、こどもたちとたくさん関わりたい。
- ・専門的な知識とともに、こどもへの理解を深めていく。
- ・イベントなどに参加し、地域の子育て支援に貢献したい。

◇人間性 14.8%

- ・常に笑顔、明るく元気な保育士。
- ・思いやりのある保育士。
- ・穏やかで優しい保育士。
- ・こどもと共に成長していける保育士。
- ・メリハリのある保育士。
- ・精神的に余裕があり、安定している保育士。
- ・責任を持ち、努力を惜しまない保育士。
- ・こどもたちと全力で向き合うことができる保育士。
- ・感性豊かな保育士。

◇その他 0.8%

- ・なりたくない。
- ・特になし。
- ・年々わからなくなっている。
- ・まだわからない。
- ・これからどんな保育士になりたいか、みつけない。
- ・プライベートも充実させたい。

今後、保育士として働きたい方からあがった内容では、こども、保護者、保育者に信頼される保育士になりたいという回答が多かった。それにともない、「こどもや保護者への寄り添い」「それぞれが安全に、安心感をもって過ごせるような環境づくり」「多様化するこどもや、家庭に対しての平等」「時代に合わせた保育」などの目指したい理想や意見も多くあげられた。

専門的な知識と共にこどもへの理解を深め、明るく元気に、そしてあたたかい気持ちでこどもたちを受け止めていきたいといった思いがあることもわかった。

また、「年々わからなくなっている」「これからみつけていきたい」などといった意見もあり、今後の現場でのかかわり方や指導の仕方なども重要な鍵となっている。

問 6 保育実習に行き、楽しかったこと、良かったことはなんですか？

◇こどもとの関わり 52.8%

- ・ こどもと一緒に遊べ、成長を身近で感じられたこと。
- ・ こどもから話しかけられたことや、だいすきって言われたこと。
- ・ こどもが声掛けで行動してくれたこと。
- ・ 乳児がかわいかったこと。
- ・ こどもたちが覚えてくれて、関わる中で段々と心を開いてもらえた。
- ・ 自分が考えたことで子どもが喜んでくれたこと。
- ・ 様々な年齢のこどもと関わる事が出来たこと。
- ・ 実習中にこどもが頼ってくれたこと。
- ・ 作成したおもちゃや本で遊んでくれたこと。
- ・ ピアノを弾いて歌ってくれたこと。
- ・ 一緒に給食を食べたこと。
- ・ こどもと関わる楽しさを改めて知った。
- ・ 一人ひとり性格が違って個性を見られた。
- ・ こどもたちの目線でしかわからないおもしろいことを教えてもらった。

◇大人との関わり 6.0%

- ・ 保護者、保育者に褒められたこと。
- ・ 将来の目標になる職員に出会えた。

- ・先生に褒められたことでより学びが増え、やる気が向上した。
- ・現場の保育士が優しく、丁寧に教えていただいたこと。質問しやすかった。
- ・職員の方から一緒に働きたいと言われた
- ・現場の様子がわかり、現場の声を直接確認できたこと。
- ・保育者それぞれの考えを知れたこと。
- ・保育者に向いていると言ってくださった。
- ・保育者の方からのアドバイスを沢山もらえたこと。
- ・先生方の関わりは目から鱗で保育士を改めて尊敬した。
- ・就職したいという気持ちが前向きに持てた。
- ・現場の先生方からこどもたちとの関わりや援助を教えてもらった。
- ・様々な言葉掛けを学ぶことができた。
- ・保育者の方がどうして保育の道に入ったのか、何を大切にしているのか、フィードバックなどがあるととても嬉しかった。
- ・こどものことを考えて対応したり、一緒に遊んでいたりする様子をみることができ、良いなと感じた。

◇実習を通して 29.8%

- ・行事と一緒に参加できた。
- ・実習を終えた達成感。
- ・座学では学ぶことのできない発見があり、読み聞かせなど実践的なことが学べた。
- ・こどもと関わる仕事がしたいと再確認できたこと。
- ・社会に貢献できていると実感できる。
- ・2回以上実習に行くことで、園の比較ができる。
- ・部分実習で絵本を読んだり手遊びをしたり、こどもの反応をダイレクトに感じられた。
- ・現場で保育に関わり、保育者のやりがいや配慮を学んだ。
- ・大事な姿勢やかかわり方、言葉かけの方法など実践的なことを学ぶことができた。
- ・折り紙をきっかけにこどもたちが自由時間にも折り紙をし始めたこと。
- ・どんな流れなのか、自分は保育園か幼稚園向きなのかを理解することができた。
- ・こどもの視点や目線にたって物事を考えることや、専門的な関わり方を学ぶことができた。
- ・貴重な体験ができ、保育感が変わったこと。
- ・保育者の行動の意図を理解できたこと。
- ・こどもならではの感性に出会え、現場でしか味わえない体験。

- ・成人のしょうがい者福祉施設で実習できたこと。
- ・特徴や困難さを抱えているこどもと関わる機会がなかったが、間近でどのようなところに困難さがあり関わればいいのかわかったところ。
- ・こどもと知らないことについて一緒に探求できたこと。
- ・教育現場のリアルを良い意味でも悪い意味でも自身で感じたり学べたりしたこと。

◇ない	0.4%
◇まだ実習に行っていない	4.0%
◇無回答	19.7%

保育実習に行き、楽しかったこと、良かったことの半数がこどもとの関わりをあげていた。一緒に遊んだりする中で、コミュニケーションをうまく取ことができるようになり、こどもが少しずつ心を開いてくれたことや実習を通して、学校では学ぶことができない発見があったり、こどもと関わる仕事がしたいと再確認できたり、現場のことをいい意味でも、悪い意味でも感じたり学べたりすることができたようである。

保育士不足と言われている中、一人でも多くの学生が保育の現場で働く選択ができるよう、誰もが働きやすい環境になればと願う。

問7 保育実習に行き、大変だったこと、つらかったことは何ですか？

◇日誌・指導案・実習準備・実習 56.0%

- ・日誌の記入に時間がかかる。毎日書くこと。
- ・園や保育士によって書き方や量が違う。
- ・責任実習の準備やピアノの練習、記入する物も多く寝不足になる。
- ・日誌と体調管理。
- ・エピソードを書くことが負担だった。
- ・自分が精いっぱい頑張ったことに対して、大変厳しい評価をいただいた。
- ・指導員の重圧、相性。
- ・クラス全体をまとめたり、声掛けが大変だった。
- ・責任実習が大変だった。うまくいかなかった。

◇人間関係 11.5%

- ・園長と主任保育士との意見が合わず辛い（先生同士で伝えている内容が違う）。
- ・自分が入ったクラス以外のこどもと遊んでいたら注意されたこと。
- ・先生によって伝え方が強かったり、言っていることが違ったりするとき。
- ・人間関係が良くないところに当たった時、こどもだけでなく職員との関わりも大変だと実感した。
- ・人間関係や仕事量、体力勝負なところ。
- ・対応がわからず慌ててしまったとき。
- ・休憩室が先生方と一緒にすること。
- ・職員とのコミュニケーションの取り方。
- ・実習先の先生と保育感が合わない。
- ・実習生という疎外感、間違えても偏見を待たずに相互理解できるとよかった。
- ・保育者が怖い、言葉遣いが気になる。
- ・保育者により指示が変わる。
- ・保育者からどのようにみられているかが気になり、意見が言えなかった。理不尽と感じた。

◇こどもとの関係 12.7%

- ・積極的に話しかけられなかった。
- ・こども同士のトラブルが起きた際の対応の仕方がわからなかった。
- ・こどもがなぜ泣くのかわからなかった
- ・こどもにうまく関われなかったとき、こどもとの距離感。

- ・年齢によってかわり方が異なり、それに合わせた援助や配慮が大変。
- ・活動に入ってこないこへの援助や声掛け一人ひとりに合わせた対応。
- ・対応の仕方がわからない。関わり方の難しさ。（0歳児との意思疎通の仕方、食べさせ方）
- ・こどもの体力についていくこと。
- ・支援の必要な子との関わり方。

◇その他 11.8%

- ・慣れない環境で保育することや新しい場へ行くことの不安。
- ・声が通らないこと。
- ・自分の未熟さに気づいたこと。
- ・睡眠時間が取れないこと。体調管理。
- ・実践に移すことの大変さ。
- ・朝が早い。園が遠い。
- ・慣れない環境で保育すること。（職業の大変さを目の当たりにした）
- ・まだ実習に行っていない

大変だったこと、つらかったことで圧倒的に多かったのが、日誌・指導案など書類作成の多さであった。睡眠時間を減らし、作成しているという意見も多く、寝不足や体調不良も多く挙げられている。パソコンに慣れている世代ということもあってか、手書きすることを負担に感じているようだ。慣れない環境下での実習で、保育者とのコミュニケーションや話しかけるタイミングに悩んでいる実習生も少なくない。職員間での指導の違い、担任間での方針の違いに戸惑うことも多く、実習生という立場で、どこまで踏み込んでよいのか迷っているという意見も多かった。受け入れる側も考慮の余地がある。

こどもとの関係では、こども同士の関わりに対してどのように対応したらよいか悩んだり困ったりした様子が伺える。こどもと接する機会がなく実習に来ている実習生が多くなっていることを踏まえ、実習生に対しての指導の仕方も考える必要がある。実習で見聞きしたことにより不安を感じている実習生もいる

問8 保育実習に行き、授業で学んだこと、自分の思いとのギャップはありましたか？

・ギャップはあった	53.3%
・ギャップはなかった	16.5%
・実習未経験	2.8%
・無回答	2.8%

◇こどもとの関わり 11.9%

- ・こどもが想像以上に可愛い。
- ・～しちゃだめという表現はいけないと教わったが、現場ではその表現を使わないとやめないこどももあり、難しかった。
- ・先生としてこどもと触れ合い、声を掛けることが難しかった。
- ・想像以上にこどもをまとめることが大変だった。
- ・こどもたちが予想外の行動をすることに驚いた。
- ・こどもと関わることの難しさを感じた。自分の言葉で喜んでくれるこもいれば、反応が薄く思った通りに進まなかった場面があった。
- ・ただ関われば良いのではなくたくさんの事を考えて一人一人に関わる。
- ・保育者の言葉がけ一つでこどもの行動が変わる。
- ・こどもたち一人ひとりに丁寧に、は理想よりはできていない、集団生活だからこそ全体を見ながらでないといけない。
- ・こどもたちは可愛く、優しく、とても楽しく接することが出来た。
- ・こども一人ひとりの思いに寄り添いながらも保育を展開させていくことの難しさ。
- ・保育者が積極的に関わるだけではなく、見守るという援助も大切になること。
- ・こども一人ひとりの思いに寄り添いながらも保育を展開させていくことの難しさ。
- ・一人ひとりと丁寧に関わりたいという思いが強かったが、集団の中で一人ひとりに対して丁寧に関わるができなかった。

◇実習してみないとわからないことがあった 8.8%

- ・実習でこどもと関わってみてトラブルの仲介やこどもへの行動の促し方が授業で学んだ結果と実習と違うと感じた。
- ・授業だけで学んだことの他にも自分で学んでいく必要があったこと。
- ・授業で学んだことと実際に行うものは全然違うと感じた。

- ・実践の方がより身につくと感じた。
- ・絵本や手遊びなどをやるむずかしさ。
- ・こどもの発達や個性などは実習に行ってみないと分からないと思った
- ・常に全体を見渡しながら行動することの大切さを学んだ。
- ・本当に様々なこどもたちがいるということ。
- ・実際の現場に行くことでしか得られない知識や学びがある。
- ・危機管理や、こどもたちを引きつける声かけや働きかけを学んだ。
- ・こどもたちのことは長い時間を費やさないと本心を知ることはできない。

◇授業で学んだことを活かせなかった 4.2%

- ・元気なこどもたちが多く、授業で学んだ声かけが上手く出来なかったりした。
- ・模擬授業でやったことが全然通じなかった。
- ・学校では座学しかないので実際こどもと関わるのが意外と難しい。
- ・手遊びのレパートリーがない。
- ・授業で学んだことを実際の保育の現場で行うことに少し難しく感じる場面もあった
- ・授業で使っている教科書や事例があくまで1例でしかないこと。
- ・座学とは全く違うこどもの様子に戸惑った。

◇大変な仕事 3.5%

- ・保育者の仕事の大変さは自分が思っていた以上だった。
- ・とても大変だがやりがいのある仕事。
- ・休憩時間をしっかりと取ることができないなど、保育士の大変さを感じた。
- ・自分が思っていたよりも保育の現場はとても大変だということを学んだ。
- ・予想外な行動が多いこどもたちで、授業で学んだとおりには進まない。

◇こども主体ではない保育 2.8%

- ・主体的に遊ぶことの出来る環境を設定している様子が全く見る事が出来なかったの
で大きなギャップを感じた。
- ・これは適切なのだろうかといった保育をしているところもあった。
- ・不適切保育などはなかったが幼稚園も保育園も集団保育を行っていた。
- ・不適切と思われるような言動をしている保育者を目の当たりにしたこと。
- ・時代は変わっているのに保育士はアップデートされていないことは良くないと感じた。
- ・こどもの主体を考慮してない保育。

◇園によって保育内容が違う 2.8%

- ・授業ではこどもをほめて伸ばす事や、こどもの主体性を大事にする事を学んできたが、実習を行った幼稚園の教育色が強く、教科教育のような活動をしていたためギャップがあった。
- ・保育園の自由な雰囲気に対しギャップを感じた。
- ・主体性を大切にせず放任になっていたり、もはや学校のようなところもあり現実と理想のギャップを感じた。
- ・キリスト教の保育園での実習で、キリスト教保育を学んでいなかったため戸惑いがあった。

◇職場環境について 2.4%

- ・休暇が休まる時間になっていない。
- ・保護者のトラブルの対応について。
- ・先生たちの仕事が多すぎる。
- ・時間外労働が多すぎる。
- ・休憩時間をしっかりと取ることができないなど、保育士の大変さを感じた。
- ・思った以上に休憩とることができないこと。
- ・保育士はただこどもと遊んでいるだけではないということはよくわかっていたけど仕事量が多い。

◇発達について 2.3%

- ・月齢差や個人差が大きいと感じた。
- ・月齢ごとに出来ることが全く違うこと。
- ・こどもの発達状況はこどもそれぞれ。
- ・こどもは本当に一人ひとり違い、特色があるのだと感じた。
- ・こどもたちの発達段階が個々によって違うこと。
- ・こどもたちの個性の強さを感じ、一般的な発達だけでなく、様々な視点でこどもの姿を捉えることが必要と学ぶ。

◇こどもたちができることが多い 2.1%

- ・授業で学んできたことよりもこどもの出来ることが多かった。
- ・思っていたよりも3歳児のこどもが自分でできることが多かった。
- ・色々なことを理解しているこどもが沢山いたこと。

- ・ こどもは大人が思っているよりも大人を見ているし、自分で色々な考え、思いを抱いている。
- ・ こどもは意外とできる。

◇こどもとの関わり以外 1.7 %

- ・ 保護者のトラブルの対応について。
- ・ 慢性的な人手不足を感じた。
- ・ 人間関係の構築の難しさ。
- ・ 保育士同士の人間関係などが働く中で結構大事になってくることがわかった。
- ・ 人間関係が大切。同じクラスの先生同士の仲が良くて驚いた。

◇自分の適性 1.4 %

- ・ 自分が想像していた保育園の仕事と少し異なることに気づき、元々は小学校教員を目指していたが、自分のやりたい仕事内容的に保育士であると思った。
- ・ こどもが好きでも、先生が向いているわけではないことがわかった。
- ・ 実習園が自分に合っていて保育士って素敵だと思えた。
- ・ 自分には向いていないと感じた。
- ・ こどもたちはとても可愛かったのでやりがいを感じたが、より自分には向いていないのではないかという気持ちが増した。
- ・ こどもたちにとって、おもしろいと感じられる活動を創造する力があまりに欠如していることを痛感し、向いていないと感じた。

◇こどもが好きだけではできない 1.4 %

- ・ こどもが好きという思いだけではやっていけないこと。
- ・ 保育士はただこどもと遊んでいるだけではないということはよくわかっていたけど仕事量が多い。
- ・ こどもが好きなだけじゃ働けないということ。

◇事務的作業が多い 1.1 %

- ・ 日誌の負担が思っていたより大きすぎた。
- ・ 事務作業が多くあり、大変そうだった。
- ・ 園によって異なる保育日誌の書き方。

◇その他 4.0%

- ・思ったより先生方が優しく、温かった。
- ・思っていた以上に ICT 化が進んでいなかったこと。
- ・向上心が増えた。
- ・予想以上に 1 日が、あっという間に過ぎていく感覚があった。
- ・優しい先生だけじゃない。
- ・時代に合わせた活動がある。
- ・思っていた通りにピアノは弾けない。

たくさんの回答をいただき、学生の皆さんの真面目さが伝わった。

「保育実習に行き、授業で学んだこと、自分の思いとのギャップはありましたか？」との問いに半数以上があったと答えた。授業で学んだことは現場では理想であったり、こどもたちの反応が薄かったり、思うように伝えられなかったり…。しかし実習は実習。2 週間ではこどもたちや職員の性格や、こどもたちの家庭環境など把握しきれないわけがない。実習でギャップがあるのは当たり前！

ほんの少しでもこどもがかわいい、保育士に興味があると思ったらぜひ保育の世界に怖がらずに飛び込んでほしい。実際に働いてみると大変さより、保育の素晴らしさに気付けると思う。皆さんと一緒に働けるのを楽しみにしています！

問9 職場の先輩保育士に望むものは何ですか？（環境・指導など）

◇人間関係 50.9%

- ・話しかけやすい雰囲気、相談しやすい。（多数）
- ・話し合い、語り合いができる関係性。
- ・パワハラ、いじめのない良好な関係。
- ・悪口、陰口のない職場。
- ・明るい職場。
- ・温かい穏やかな職場。
- ・楽しい保育ができる職場。
- ・協力的、助け合いができる職場。
- ・保育について語り合える職場。
- ・風通しの良い職場。
- ・尊敬できる。
- ・信頼し合える。

◇指導方法 20.4%

- ・優しく丁寧に教えてほしい。（多数）
- ・的確なアドバイスがしてほしい。
- ・優しい声掛け、優しい言い方。
- ・否定ばかりではなく、ほめて伸ばしてほしい。
- ・理不尽、押し付け、感情的にならないでほしい。
- ・わかりやすく伝えてほしい。
- ・手本を見せてほしい。
- ・何故そうなのかを教えてほしい。
- ・どのようにしたらよいか改善例のアドバイスがほしい。
- ・こどもへの温かい関わりや言葉かけの引き出しを教えてほしい。

◇人柄・人間性 11.3%

- ・優しい。
- ・親切。
- ・誰にでも常に笑顔。
- ・思いやりがある。
- ・頼れる。

- ・話しかけやすい。
- ・機嫌を表に出さない人。
- ・イライラしていない人。
- ・面倒見がよい。
- ・寄り添ってくれる。
- ・寛容、傾聴の姿勢。
- ・広い心。
- ・最低限の挨拶は返してほしい。
- ・きつい言葉や威圧的な態度はやめてほしい。

◇職場環境 9.1%

- ・残業や持ち帰りの仕事を強要しないでほしい。
- ・定時であがりたい。
- ・有給休暇のとりやすさ。
- ・休憩をしっかりとらせてほしい。
- ・育児休暇などがとりやすい。
- ・スキルアップのために研修（外部顧問や勉強会）の機会を与えてほしい。
- ・資格取得援助。
- ・賃金を上げてほしい。
- ・清潔感のある園。

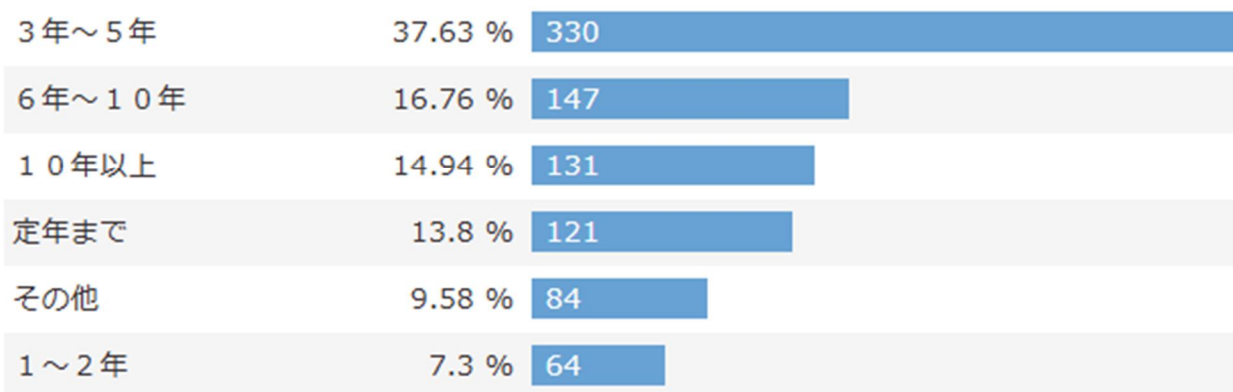
◇保育環境 2.2%

- ・園の方針を揃えてほしい。人によって言っていることが違うと困る。
- ・のびのびとした楽しい保育。
- ・こども一人ひとりを大事にする保育。
- ・こどもがやりたいことができる保育。
- ・就学前に身につけることができる保育。
- ・こども主体の保育。
- ・こどもが安心安全な環境。
- ・こどもが楽しさを感じられる保育。
- ・こどもに優しさを教える立場だから、同じように優しく接してほしい。

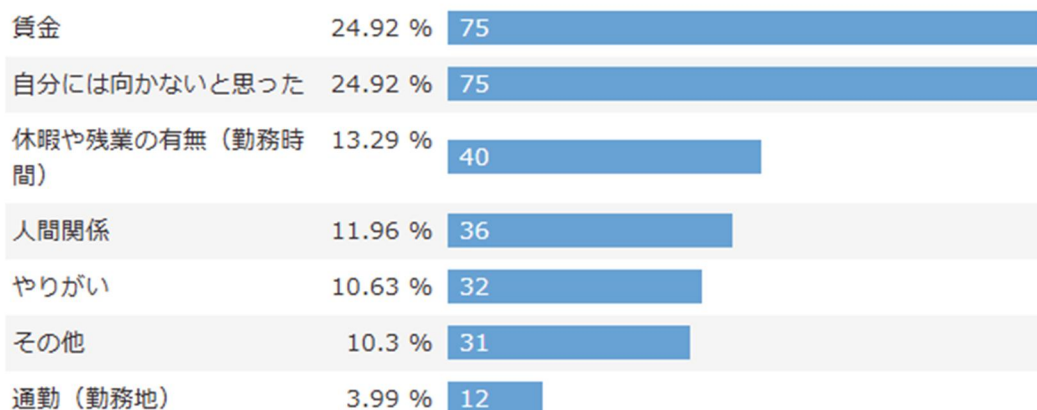
職場や先輩保育士に望むものとして「良好な人間関係」をあげる回答が多く、その中でも「話しかけやすい、相談しやすい」という意見が多数だった。次いで指導方法で最も多く挙げられたのは「優しく丁寧に教えてほしい」という意見であった。新任職員に対して寛容であること、褒めながらわかりやすく教えることが指導方法として求められている。また保育士の人柄や人間性に触れる意見も多く、「優しい」「頼れる」「親切」「思いやりがある」などの言葉からもこういう保育士が先輩であってほしい、ということがうかがい知れる。職場環境については休憩時間の確保や休みのとりやすさ、定時で上げれること、持ち帰りの仕事の強要がないことなどの意見が多数あった。

新任職員が理想とする先輩保育士像は「優しく親切、寛容な姿勢で、丁寧な指導ができること」であると推察する。常に話しやすい雰囲気やいつでも気軽に相談できることも求められており、職員間の風通しが良い現場の見直しと環境作りが協働していくためには最重要課題なのではないかと考える。

10 保育士としてどのくらい働きたいですか？



11 (一般企業へ進む方へ質問です) 保育士として働かないと思った決め手があれば教えてください。(複数回答可) …



まとめ

今年度、研究部会では働く職場の環境改善、人材育成に役立てられるよう、離職防止、就業継続のための課題について研究しました。

アンケートの回答からは、若手の保育士やこれから資格取得予定の学生の皆様から現時点で感じている素直な気持ちを回答いただきました。

在学中はまだ自分がどのような児童福祉について勉強をしたいのか、悩んでいる方も多かったかと思っておりましたが、目的を持って学校を選択されている方が多いことに感服しました。

共通して回答いただいていた課題として、実習先や職場の良好な人間関係、常に話しやすい雰囲気、いつでも気軽に相談でき、一緒に考え、助けてくれる同僚がいる環境を求めています。実際に働いていてみると、こどもはもちろん保護者との関わりも必要とされる現場は言葉や関わりひとつひとつに責任の重大さを感じています。安心して預けていただけるよう職員間のいつでも相談できる環境づくりはとても重要となってきます。

また、皆様共通してこどもはかわいく、癒されるがそれだけでは続けられない現状を感じています。課題とされている賃金、勤務体制（人員確保も含まれる）、勤務中の休憩の確保、残業の有り無し、福利厚生等すべてが満足できている職場は少ないかもしれません。この仕事にやりがいを感じ、働きたい、働き続けたいと考えている方々のライフステージが変化してもしなくても働き続けられる職場が少しでも多くなっていければと思います。

今回のアンケートでは、多くの回答を頂きました。お忙しい中、御協力いただき、誠にありがとうございました。このアンケートが少しでも現場の職場改善、人材育成に役立てていただければ幸いです。